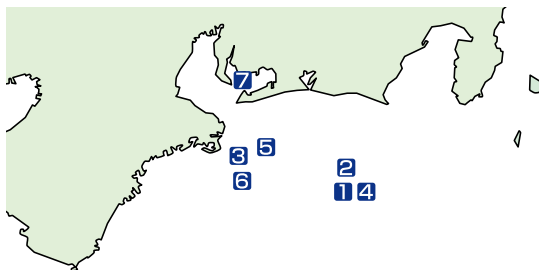


●近世以降に起きた主な地震による津波被害（渥美半島周辺のもの）

No.	年月日	震源地	規模	津波波高	被害地域
1	1605.2.3（慶長9年）	東海沖	M8.0	3～6m	太平洋沿岸、伊勢湾・三河湾沿岸
2	1707.10.28（宝永4年）	東海沖	M8.3	3～7m	太平洋沿岸、伊勢湾・三河湾沿岸
3	1708.2.13（宝永5年）	東海沖	M6.8	2～3m	太平洋沿岸、伊勢湾沿岸
4	1854.12.23（安政元年）	東海沖	M8.3	2～10m	太平洋沿岸、三河湾沿岸、知多半島西岸
5	1855.11.7（安政2年）	東海沖	M6.8	2～3m	太平洋沿岸、三河湾沿岸
6	1944.12.7（昭和19年）	東海沖	M8.0	1～1.5m	伊勢湾・三河湾沿岸
7	1945.1.13（昭和20年）	三河湾	M7.1	1m	※戦時中のため詳細な記録なし

●上表の地震の震央分布図



【出典】「愛知県被害津波史」

※このほかにも、東南海、南海で多くの地震が発生していますが、ここでは渥美半島に津波の影響があったものだけを取り上げています。

津波の記録をひもとく

過

去をさかのぼると、この地域でも多くの地震の記録が残っています。その中で、近世以降、渥美半島周辺で発生し、津波を伴った地震を振り返ってみましょう。また、特に大きな被害をもたらした2つの地震を、詳しく紹介します。

■宝永東海地震（M8.3）

（1707年10月28日・宝永4年）

この地震の約1時間後には、南海地震（M8.4）が発生しました。津波は伊豆から九州東岸に至る範囲に波及。宝永東海地震による家屋の倒壊・流失は約1万戸、犠牲者は約2000人でした。

●渥美半島の被災状況

〔堀切〕 30余の家屋流失、漁船流失多数、1～2人流死、推定津波高6～7m

〔池尻〕 池尻川を遡上、推定津波高6～7m

〔田原〕 新田・汐川堤防決壊し田畑被害多数、推定津波高4m

■安政東海地震（M8.3）

（1854年12月23日・安政元年）

この地震の翌日には、南海地震（M8.4）が発生しました。東海道沿岸に大津波が到達。安政東海地震による家屋の倒壊・流失は約8300戸、犠牲者は溺死者を含め約1000人でした。

●渥美半島の被災状況

〔堀切〕 推定津波高6～7m

〔小塩津〕 船3隻大破・4隻流失、推定津波高6～8m

〔赤羽根〕 引き波500m、池尻川・精進川を遡上、池尻で床上浸水、辨天社（10m）が流失、推定津波高6～10m

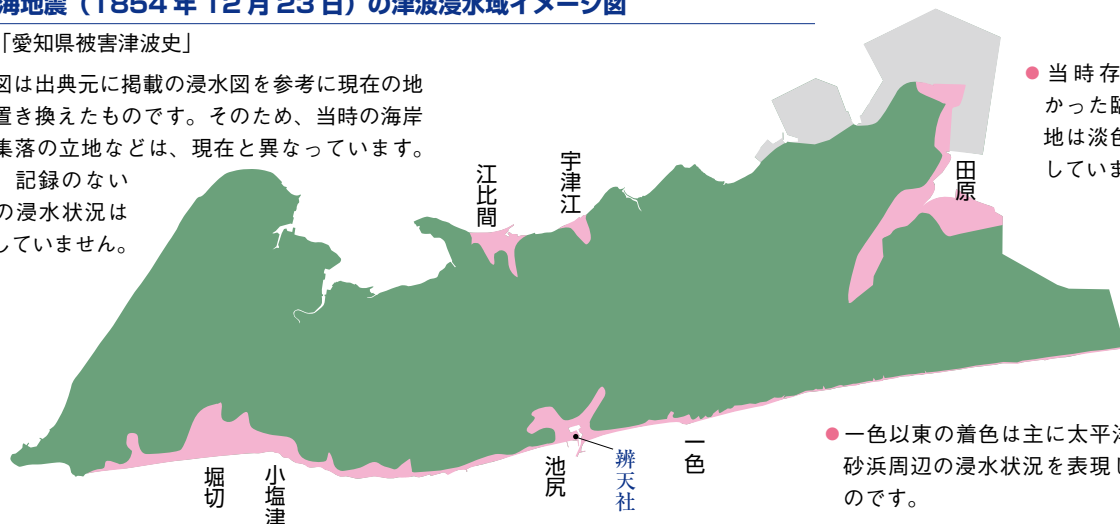
〔宇津江〕 制札場破損、田畑被害多数、推定津波高3～4m

〔田原〕 橋・堤防損傷、漁具流失多数、推定津波高3～4m

安政東海地震（1854年12月23日）の津波浸水域イメージ図

【出典】「愛知県被害津波史」

●この図は出典元に掲載の浸水図を参考に現在の地図に置き換えたものです。そのため、当時の海岸線や集落の立地などは、現在と異なっています。また、記録のない地域の浸水状況は記載していません。



●当時存在しなかった臨海埋立地は淡色で表現しています。

●一色以東の着色は主に太平洋岸の砂浜周辺の浸水状況を表現したものです。